研究支援報告

間質性肺炎における ANCA 陽性症例（ANCA 関連血管炎症候群）の頻度と病態

野津　朋子　　東京女子医科大学女性医学研究者支援室、同呼吸器内科

略歴：2000 年　東京女子医科大学卒業　呼吸器内科入局
2004 年第1子出産、2006 年第2子出産

【目的・概要】ANCA 関連血管炎症候群には血管炎を主病変とする独立した疾患（原発性）と他疾患に血管炎を伴う病態（続発性）があり、共通に侵される臓器は肺と腎臓である。肺血管炎は通常全身の血管炎症候群の一症状として発症する。MPO-ANCA 陽性症例では高頻度に壊死性半月体形成性腎炎が認められることなどより、これまで MPO-ANCA の臨床研究は主に腎病変について進められてきた。しかし、肺病変についての報告は数少ない。本邦の報告では MPO-ANCA 陽性症例の肺病変には間質性肺炎、肺出血、喘息があるとされ、特に間質性肺炎の頻度が高く、原因不明の間質性肺炎のうち MPO-ANCA 陽性例が約 10%との報告もあり、ANCA 陽性疾患と間質性肺炎の関連性が注目されている。また、最近では MPO-ANCA 陽性例の間質性肺炎は肺癌への移行の頻度が高いとの報告がある。しかしこれまで間質性肺炎と診断された症例から ANCA 関連血管炎症候群を検討した報告は少ない。そこで、本研究では間質性肺炎における頻度と病態について検討する。

【対象】2000 年から 2006 年までに東京女子医大呼吸器内科に入院し、ANCA を測定できた間質性肺炎症例を対象とした。診断については胸部 CT、肺機能検査、生化学検査について評価し、確定診断とした。

【測定項目】

間質性肺炎と診断されたもののうち MPO-ANCA および PR3-ANCA を測定した症例について検討。これらについて、初発症状、尿検査（蛋白、潜血）血液検査（WBC、CRP、LDH、BUN、Cr、MPO-ANCA）、肺機能検査、胸部 CT、BAL を検討。

【成果】

現段階で間質性肺炎と診断された症例のうち ANCA が測定されていた症例は 57 症例であった。
そのうち 21 症例が ANCA 陽性（MPO-ANCA17 症例、PR3-ANCA4症例）であった。
これらの症例において ANCA 陽性群と陰性群との比較検討等行っていく。
また、同時に外来患者においても前向きな検討も行っていく。